

(東京都・60代・男性)

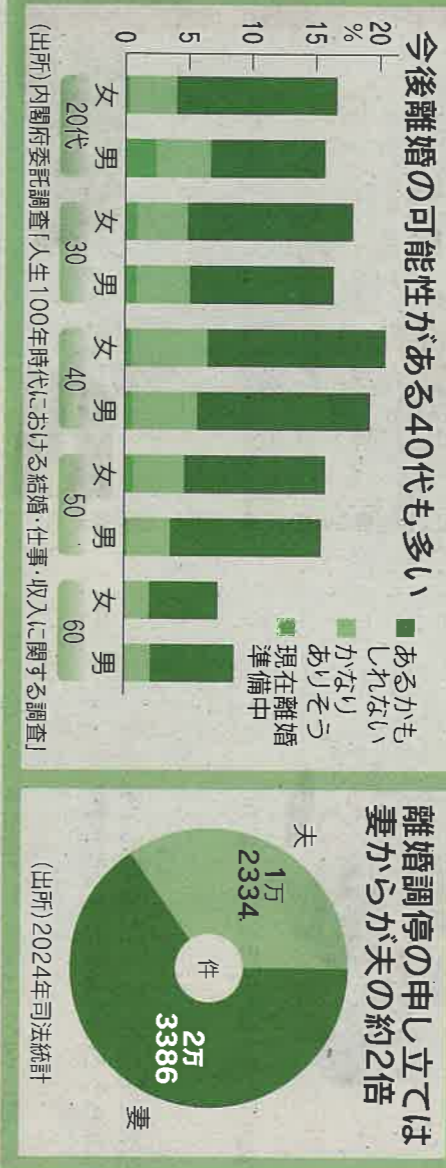
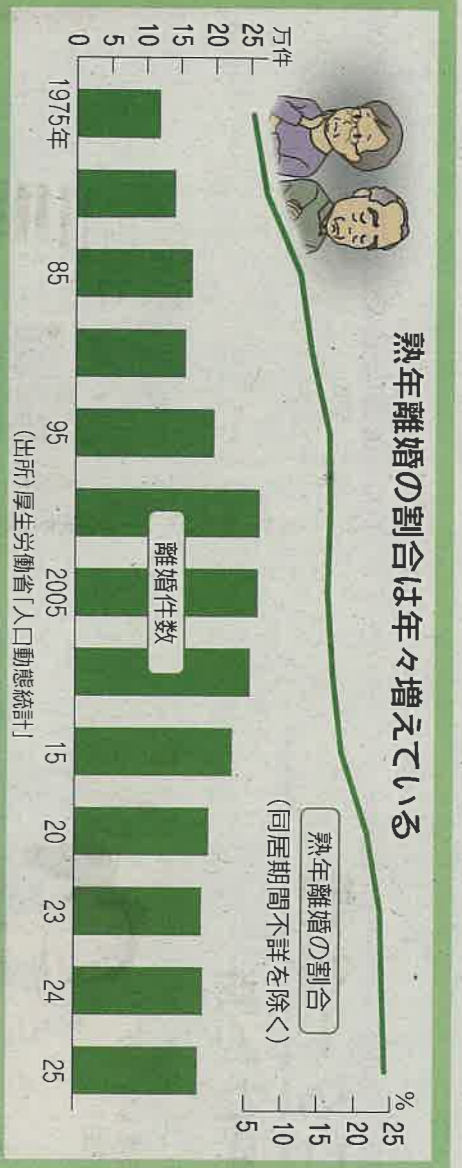


回答者
美村里江

女性、エッセイ、テレビ番組「お花のこども色」の新作『お花のこども色』の発売中。



同居20年以上の熟年離婚の割合が増えている。50年前は6%未満だったが、今や離婚する4組に1組が熟年夫婦だ。離婚の可能性はある「予備軍」の割合は40代が最もとの調査もある。

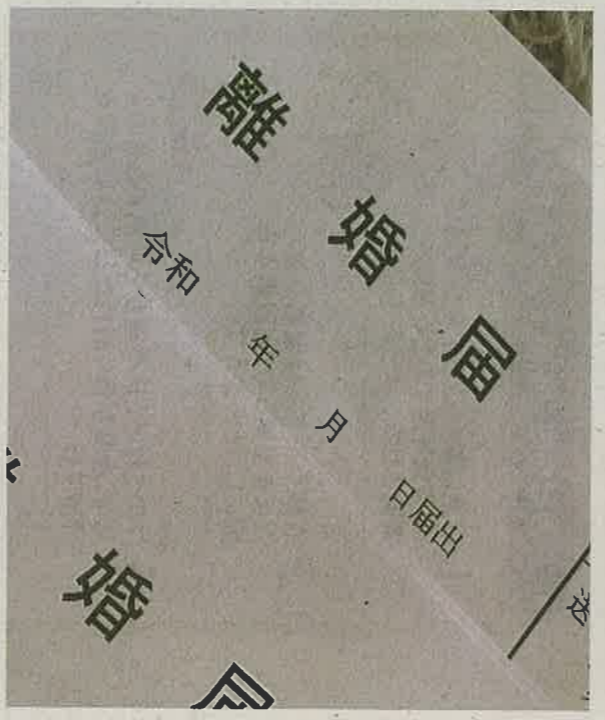


離婚の4組に1組が熟年夫婦

＊「予備軍」比率、4代が最高

万円。子育て経済的不安もあるが、不品行の証拠を集めて養育費などの交渉を有利に進めたい考えだ。女性は離婚後は選択の自由が増えるが、責任も増えるが、納得感を持って人生を全うできず、離婚の決定打となったのは4年前の出来事。女性の母親が介護が必要になるなどした理由では「暴力を振るう」や「異性関係」といった内容が多い。この悪循環が続くと、1991年から4万件以上の相談を受けてきた離婚カウンセラーの岡野あつきさんは「夫側も言葉にできない不安や孤立感がある」と話す。その上で「夫婦はどちらが理想の役割を演じるのではなく、互いが『本当は何に困っているか』を少しづつ言葉にしていくことが大切」という。40代で離婚を考える「予備軍」も多い。内閣府が21～22年に実施した調査では、「今後離婚の可能性がある」と答えた人の割合は男女とも4代が最高だった。

59年に結婚した大阪府の会員の埼玉県の男性は、感謝の気持ちを伝えるようにして、離婚に向かい、就職や、機材の搬入搬出など、水回り期で思い描いていた生活は基盤せず、2人の子育てが落ち着いたタイミングで25年に転職。海外出張も増え、理想のキャリアに近いという。最近、夫の不品行も発覚したが、女性の方は約50%だ。(花原葵)



「目の前が真っ白になる」と、埼玉県の会社員男性(57)は2015年の正月、テレビ番組で結婚。3人の子が生まれた。男性は営業職で、結婚生活の半分以上は単身赴任だった。「仕事に力を注いだ。2年前、33年間の結婚生活は2年前、33年間の結婚生活に終止符を打った。20歳の時、結婚相談所で紹介された前夫と結婚。31歳で年金、長女からの補助で生活を支えていた。妻は「離婚を繰り返して、財産分与で得た財産や、夫婦関係修復カウンセラーを立てる。女性は「離婚を繰り返して、妻側は孤立感を感じ、夫側は不安や孤立感がある」と話す。その上で「夫婦はどちらが理想の役割を演じるのではなく、互いが『本当は何に困っているか』を少しづつ言葉にしていくことが大切」という。40代で離婚を考える「予備軍」も多い。内閣府が21～22年に実施した調査では、「今後離婚の可能性がある」と答えた人の割合は男女とも4代が最高だった。

離婚数は減っているが、熟年離婚の割合は増えている。59年に結婚した大阪府の会員の埼玉県の男性は、感謝の気持ちを伝えるようにして、離婚に向かい、就職や、機材の搬入搬出など、水回り期で思い描いていた生活は基盤せず、2人の子育てが落ち着いたタイミングで25年に転職。海外出張も増え、理想のキャリアに近いという。最近、夫の不品行も発覚したが、女性の方は約50%だ。(花原葵)